

太宰府市【福岡県】 歴史文化基本構想を活用した 観光拠点づくり事業



■協議会メンバー…
太宰府市／太宰府天満宮／観世音寺／戒壇院／公益財団法人古都大宰府保存協会

■構想策定年度…
平成二十四年三月
■補助事業期間…
平成三十一年三月二十九日

歴史文化基本構想の概要

市民と協働のもと、文化遺産を総合的に把握し、文化遺産を「そのものとして見守る」・「文化財として保護する」・「市民遺産として育成する」取り組みを通して、文化遺産の保存活用を持続的に行うことを目的とする。
具体的には、文化財指定や太宰府市民遺産の認定と育成団体の活動等が進んでいるほか、日本遺産認定を受けて観光客の史跡回遊のサポート等も始まっている。

観光拠点形成の方向性

- ・市内回遊のための観光ルートの充実
- ・日本遺産のストーリーを活用した市内広域を包括した展開
- ・VR等視覚でわかるような外国人対応も含めた観光コンテンツの制作

観光に関する課題

- ・現地の解説・整備では域内の歴史文化を俯瞰する情報が得にくい
- ・観光客向けの体験メニューが少なく、また利用されていない状況
- ・エンタメ目線で案内するガイド等の不足

事業概要

「西の都」大宰府復元図製作事業（朱雀大路・客館跡）

「西の都」の舞台となる古代都市は時代とともに大きく改変され市街地化し、かつての姿を想像することは、外国人だけでなく国内観光客にとっても難しい。大宰府のかつての壮大な姿を実感できるよう、VRアプリを平成29年度より順次制作しており、引き続き古代都市の重要な構成要素の復元図制作・アプリ搭載を進める。

情報発信



※画像はH28年度制作のVRアプリ

KPI 史跡の復元図コンテンツ数：1件（H29）→4件（R2）

「西の都」太宰府観光拠点づくりワーキンググループ運営事業

日本遺産のタイトルにある「西の都」「交流拠点」といった切り口をもとに、史跡地を観光拠点として活用していくためのワーキンググループ設立し、市民や市内事業者が参加した。歴史や文化の紹介を楽しく、観光視点で情報発信・コンテンツ化していくことを中心に検討をしていき、次年度は検討したメニューを実際に販売していくまでにブラッシュアップしていく予定。

事業を構想するための取組み



KPI ワークショップ開催数：0回（H29）→9回（R2）

成果

① コンテンツの充実

H30年度は復元図制作までで視聴できる状態ではないが、次年度の客館地区平面整備等と並行してコンテンツができると、史跡への理解促進が大きく進み、観光客へ多様なルートを提案できるようになる。

② プレイヤーの発掘

市民や市内事業者、学生など、多様な層からの参加者を募ったことにより、日本遺産を活用していく事業におけるプレイヤーの発掘につながった。体験メニューやツアー等コンテンツの充実が期待される。